

# 理事長あいさつ

## ■ シルバー派遣事業の「普及」と「就業実績」の達成！！

理事長 川野武豊



平成26年度の日本経済は消費税率を3%アップして8%でスタートし、駆け込み需要等で一時景気停滞が見られましたが、「アベノミクス」効果が徐々に浸透してデフレ脱却へと一歩前進し、求人倍率も上昇して景気回復

へと進んだ1年でした。

全国のシルバー人材センターにおいては、契約金額が5年連続で減少し、会員数は3年連続で減少している現状を踏まえ、事業運営の重点目標を「事業拡大」・「会員増強」に集中し、補助金の削減（運営費から事業費重点）をはじめ、「生涯現役活躍応援事業」計画に沿って事業拡大・会員増強策が実行され、事業運営方針に大きな変化が見られました。

当シルバーにおいては、これまで民業圧迫回避への配慮から、就業開拓活動は控えて来ましたが、国からの指導もあり、団塊世代の就業先確保に着手。国・京都府・精華町の援助のもとで、「地域人づくり事業」に参加して専属の就業開拓担当職員を配置、この担当職員を先頭に全会員理事の協力のもとで、就業開拓推進活動を実施、精華町内の「既存の継続及び中断就業先」をはじめ「新規就業先」へ訪問して、アンケート調査を含め「R&D」を実施。新規就業先・復活就業先での就業件数の増加を見ることができました。また精華町シルバーへの評価・要望・期待度・信頼度等を把握できたことがこれからの事業運営に大変参考になりました。

事業業績は契約金額が2年連続で伸張し過去最高の1億4千万円を計上することができましたが、残念ながら会員数が4年連続で減少し307名となりました。(H22年度末385名→H26年度末307名=▲78名)

会員拡大には、特に力を注いだけにとっても残念な結果となりました。平成27年度精華町シルバー人材センターの事業目標は、平成26年度に引き続き日本経済そしてシルバー人材センター業界は大きな変動期にあり、また当シルバーにおいても事務局職員が大幅に入れ替わったこともあり、この変化に遅れを取ることのないよう対応に努めることが第一の課題となります。

その上で、今年度は就業開拓推進事業の継続と昨年度末に着手したシルバー派遣事業の「普及活動」と「就業実績作り」が必須の課題となります。これは、今後の当シルバーの命運を左右する重大事項です。国・京都府・特に精華町のご協力とご指導をお願いしながら、会員そして事務局・役職員が知恵を絞り前向きに努力を重ねて、今期中にシルバー派遣事業の「普及」および「就業実績」を成し遂げたいと思っています。関係各位のご協力とご指導をお願い申し上げます。おわりに

### 平成26年度「草刈班」による「飛び石事故はゼロ」となった！！

全国のシルバーが「飛び石事故」に苦慮している中、当シルバーの受注額（29,645千円）トップを占める除草作業で、毎年4～5件の「飛び石事故」が発生していましたが、今回「草刈班」と「安全・適正就業委員」の協同で「飛び石事故防止策」を検討、独自の「飛び石防止網」を開発しました。これを草刈り業者が、事故防止マニュアルに沿って作業を着実に実行して事故の発生を防いだものです。

これは会員と事務局・役職員が一致協力して達成されたもので、称賛に値する事例となりましたので披露させて頂きました。引続き事故防止に努めて頂きますようよろしくお願い致します。

## 平成26年度決算監査報告

平成26年度の決算にかかる監査等を以下の通り実施いたしました。

平成27年4月21日（火）

収支計算書及び財務諸表の確認について

衣目公認会計士事務所 公認会計士 衣目修三

平成27年4月24日（金）

会計及び業務監査

監事 廣利勝行

監事 長島正明



### 表紙写真のひとつ

精華町は今年で60年、けいはんな記念公園は今年20周年を迎えました。もう3年以上前になりますが、公園の山口所長のお話しを聞く機会があり、里山の再現、里山をデザイン、棚田、石組み、公園設立当時の理念から現在の状況までその内容は「そうだったのか…」でした。永谷池に咲く睡蓮の向うに見える観月橋は京格子をイメージしたデザインの結界、その奥には巨大石組み。見えそうで見えない、見え無さそうで見えている日本の伝統手法を取り入れています。平安建都1200年を記念して京都の造園界が総力を上げて作った公園、この様な大規模の日本庭園はもう作られることはないだろうといわれています。作庭四分管理六分といわれる中、管理レベルは最高評価のお庭です。

3月から水景園観月楼1階では、ふるさと案内人の会が中心となって「森のCafeながたん」を開いています(土日祝日営業)。日本庭園、季節の花、新緑、夏の木漏れ日、紅葉、そして冬の水鳥等、自然を満喫した後はこだわりのブレンドコーヒーを…